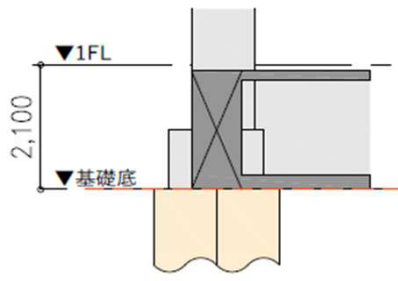
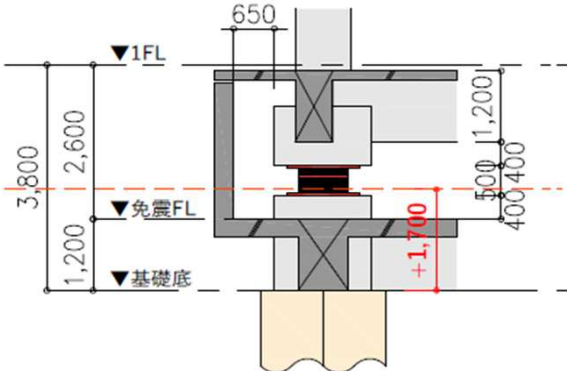
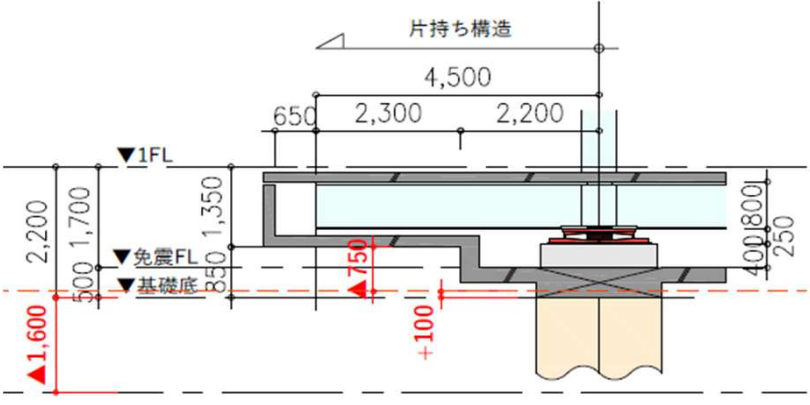
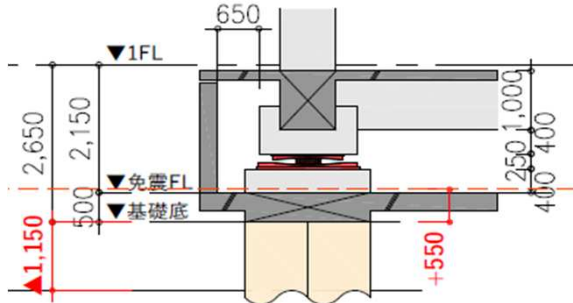


	耐震構造（共通）		免震構造（D案）		免震構造（E案）		免震構造（F案）	
基礎構造								
基礎計画	- 一般的な耐震構造の基礎架構 - 基礎梁せいは2.0mで設定		- 一般的な基礎免震構造を想定 - 免震層上下の梁せいは1.2mで設定		- 免震装置は薄型支承を想定し、免震層階高を1.7mに設定 - 外周部を片持ち構造として免震装置を無くす事で掘削量を抑制 - 基礎梁を扁平な断面形状とすることで掘削深さを抑制		- 免震装置は薄型支承を想定し、免震層階高を2.15mに設定 - 梁を扁平な断面形状とすることで掘削深さを抑制	
		評価		評価		評価		評価
施工性	根切高さは2.1m程度でありオープンカット工法で施工が可能	◎	- 根切高さは3.8m程度となるが、計画地が広いためオープンカット工法で施工が可能（施工計画で山留壁が必要になる場合がある） - 市民会館の土質柱状図によると地下水位が比較的高いことが予想されるため排水処理が必要となる可能性がある	△	根切高さは2.2m程度であり、オープンカット工法で施工可能	○	根切高さは2.65m程度でありオープンカット工法で施工可能	○
基礎底深さ	1FL-2,100mm	◎	1FL-3,800mm - 耐震構造の基礎底レベルとの差：+1,700mm	△	1FL-2,200mm、一部1FL-1,350mm - 耐震構造の基礎底レベルとの差：+100mm、一部▲750mm - 免震構造（D案）との差：▲1,600mm	◎	1FL-2,650mm - 耐震構造の基礎底レベルとの差：+550mm - 免震構造（D案）との差：▲1,150mm	○
ピット内のメンテナンス性	- 一般的な床下ピット断面寸法 - ピット間是人通路（φ600）で横移動が可能	○	免震層内の梁下有効高さ1300mmで横移動は容易にできる	◎	- 免震層内の梁下有効高さ650mmで横移動の際は低い姿勢となる - 片持ち構造部分は梁を跨いだ横移動はできない	△	免震層内の梁下有効高さ1050mmで横移動は容易にできる	○
免震装置の維持管理	—	—	梁下高さは十分にあり、点検作業や免震装置の交換に支障はない	◎	- 梁下高さは低い点検作業に大きな支障はないが、片持ち構造先端部分への移動ルートが限定されるため手間がかかる - 免震装置を交換する際の搬入、運搬に注意が必要	△	梁下高さは十分にあり、点検作業や免震装置の交換に支障はない	◎
掘削土量	約8,600m³	◎	約18,900m³	△	約9,000m³	◎	約13,200m³	○

※掘削土量は法付けオープンカット工法とし、法面角度45度、余幅1mとしています。